

【スピリチュアリズムの歴史①】

「スピリチュアリズム」や「スピリチュアル」という思想や言葉はどういった歴史的経緯で始まったのでしょうか？ここでは、スピリチュアルの歴史をたどっていきましょう。

スピリチュアルの起源はハイズビル事件であるという見解が一般的です。

・ハイズビル事件

アメリカのニューヨーク州北西部ハイズビルのフォックス家でポルターガイスト（騒々しい幽霊）現象が起こるようになりました。もともと木造2階建ての小屋のような家は周りから「お化け屋敷」と呼ばれていたようです。

フォックス一家が入ってきてしばらくは平穏でしたが、4ヶ月ほど経つとラップ音（何かを叩く音）が、天井や壁などから聞こえ始め、やがて二階を歩く靴音、地下室への階段を何かを引きずりながら降りる音、ドアが勝手に開いたり閉まったりする音などが聞こえるようになりました。

これらはラップ現象と呼ばれました。

1848年3月31日、マーガレットとケイト（キャサリンとも）という10歳と7歳の姉妹（ケイトが12歳、マーガレットが15歳だったという説もあります）は、音があまりにしつこく鳴り続けるので、一家は寝るどころではなかった。両親が、念のため、窓枠がゆるんでいるのではないかと調べているところで、姉妹がふざけて「化け物さん、わたしの通りにしてごらん」と言って手を打ったら、音がそれに応えて同じ数だけ鳴りました。

また、手拍子を取りながら数を数えると、同じような調子で鳴ったのです。姉妹は、「明日がエイプリルフールだから、誰かがわたし達をからかっているんだろう」と両親に話したそうですが、その時お母さんが、その誰かを試してやろうと思い「子ども達の年齢を音の数で表してごらん」と問いかけた所、ただちに音が鳴り始め、7人いる子どもの年齢通りに順番に音が鳴ったのです。

それから、少し長い間があり、3つ音が鳴りました。これは、フォックス夫人が最近なくした8番目の子どもの年齢を意味していたのです。そして次に、「今答えたのは人間か霊か、霊なら2つ、叩きなさい」と言うと、2つ音がしたとのことでした。

このように、姉妹と霊との間に交信が発生し、大騒ぎになりました。

それから、姉妹の質問に、鳴らす音の回数で霊は応答します。二人の姉妹が霊と交信するという不思議な能力を見ようと大勢の見物人がフォックス家に押し寄せました。

このように多くの文献に記載されています。そして、この事件が世界的にスピリチュアリズムが浸透していくきっかけとなり、更にスピリチュアルを肯定し研究している研究家の多くが、この日をスピリチュアルの夜明けと語っています。

脳大成理論 2-3

さて、それ以来、霊界との交信が「チャネリング（交霊術）」と呼ばれるようになり、これをもって、近代スピリチュアリズムが始まりました。

評判になったフォックス家の姉妹は、死者の霊と人間が交信するのに欠かせない霊媒として、数百回もの交霊会をアメリカ国内で行うようになります。そして姉妹の活動を通じて、アメリカ中に思想と共にチャネリングという概念と方法が広がっていきます。

しかしその後、事件に疑問を抱く人達の声が高まって有識者を含めた調査委員会ができ、実際に姉妹に対して調査が行われました。その結果、ラップ音は実は姉妹の足の関節を鳴らしたものであり、また古い木造の家では軋み音が出るのは当たり前と話だとされ、つまりラップ音も霊との交信も人為的なものであったと報じられました。当時、姉妹も霊的現象ではなかったと自らの行為を認めています。

しかし、ハイズビル事件そのものは、アメリカ全土にマスコミによって報じられ、その後わずか数年間で、何らかの方法で霊との交信ができると自称するスピリチュアリストの数も激増します。

その頃、ヨーロッパでも霊界との交信がブームとなり、イギリスの熱心な心霊研究家たちがスピリチュアリズムの教会を作っていくという流れになります。

ハイズビル事件の姉妹は、自分達の行為は人為的だったと認めたその1年半後に、あまりに厳しい調査だったので、自分達の仕業であると調査から逃れるために言ったのだと、実は本当に心霊現象だったと自分達の言い分をくつがえしています。

このハイズビル事件を人為的行為だったと捉えるのか、いや、これは心霊現象であり、さらにこの事件は霊的存在が人類に霊的存在を知らしめるために計画したことである、とスピリチュアルを肯定している方は定義しています。

イギリスでは、1882年に心霊現象研究協会（SPR）がケンブリッジにて設立されました。初代会長には、ケンブリッジ大学の哲学教授が就任しています。

この協会は、心霊現象や超常現象を科学的に研究することが目的だったのですが、設立直後からスピリチュアリスト達の言動が詐欺であったり欺瞞であることを暴いていきます。

同時期である1872年には、英国スピリチュアリスト協会（SAGB）が設立され、スピリチュアリズムの啓蒙活動がなされています。

さて、現在のスピリチュアリズムは、ニューエイジ思想の影響を強く受けていると考えられていますが、日本では、欧米化を受け容れた「文明開化」の時期に流れ込んできており、

脳大成理論 2-3

1910年に当時東京大学の助教授だった福来友吉（ふくらいともきち）氏が、熊本で「千里眼」を持つと有名になった女性を彼女には透視能力があると発表し話題となりました。そこから、ユリゲラー氏、宜保愛子氏やUFO特番などがテレビで放送され、話題となりました。

そして、ニューエイジ思想は信仰宗教に流れ込み、オウム真理教事件へと繋がっていきま

す。実際にこういったマスコミの影響や社会的な事件により、ニューエイジ思想やスピリチュアリズムが日本に浸透したのは事実です。この頃から日本ではスピリチュアルが拡がっていきました。

スピリチュアルの歴史は上記の流れなのですが、現在では、後から様々な理論がくっついてきており、強引なものだと、イエス・キリストの生まれる頃まで、強いてはもっと古くに歴史をさかのぼって話しを作っている団体も多いようです。

脳大成理論では、スピリチュアルを肯定も否定もしません。何を信じるのかは個人の自由です。しかし、歴史がゆがめられたり、真実が曇ることがあってはいけません。正しく知識を得て、判断していくことが重要です。

スピリチュアルと言っても一言でこういうものであると定義できるものではなく、世界には様々な宗教があるように、現在では様々な思想が混ざり合っ

てスピリチュアルが存在しています。大切なのは、目的です。わたし達は未来に向かって現実を生きています。前頭葉に過度なストレスがかかると、妄想を抱き思考の上でバランスを取ろうとするというメカニズムは心理学者や脳科学者によって明らかになっていますが、あなたが受け容れたり取り入れるモノが逃げるためのものであってはいけません。

確かに人には弱い部分があります。しかし、その弱い部分は強くなるための前駆体であり、また強さを知るための対比として必要なモノです。

弱い自分、ずるい自分、卑怯な自分に従うことなく、道徳心・良心、脳大成理論で言うところの本物の自分、別の言い方をすれば「強い自分」を軸として、正しく見極め、目指す未来に効果的に自分を働かせていきましょう。